

# 短時間予測降雨における誤差指標の総合化

## Synthesis of Predication Errors in Short-Term Rainfall

星 清<sup>1</sup>・東海林 勉<sup>2</sup>・藤田 暁<sup>3</sup>

Kiyoshi HOSHI, Tsutomu TOHKAIRIN and Akira FUJITA

1 (財)北海道河川防災研究センター 研究所長

2 (株)シン技術コンサル 技術企画部

3 (株)ニュージェック

### 要 旨

近年、平成15年8月の北海道・日高豪雨災害や平成16年7月の新潟・福井豪雨災害を例に引くまでもなく、集中豪雨による水害が全国各地で多発している。このため、国土交通省は豪雨災害緊急アクションプランの施策の一つとして「中小河川における洪水予測等の高度化」を策定し、平成17年度以降5年間で一級河川の主要な中小河川約900河川について洪水予測システム整備を行う計画である。

この洪水予測システムは洪水時にオンラインで降雨予測のデータを取り込み、河川水位や流量を実時間で計算するものであり、予測雨量、流出モデル、モデル定数の総合化が必要条件となる。この3要素が洪水予測システムの精度向上に重要な鍵となる。流出モデルや定数の総合化は既に種々な研究成果がある。しかしながら、雨量レーダの観測等に基づいて算出される数時間先までの降雨予測情報が持つ不確定性については、あまり定量的な認識が持たれずに利用されている場合が多い。

本報告では、昨年度までに行ってきた解析を拡張して<sup>1,2,3)</sup>、近年の北海道における洪水時に配信された(財)日本気象協会による降雨予測情報ならびに実測雨量の過去3時間移動平均値を予測雨量とした場合(旧建設省方式)を対象とし、予測雨量における誤差の確率分布特性を検討した。降雨予測の推定誤差の算定手法は、江藤らのレーダ雨量の誤差評価法<sup>4)</sup>に準拠するものである。

《キーワード：予測雨量；レーダ雨量計；予測雨量誤差分散；洪水予測》